

1 単元名 国際社会における日本の役割

2 単元の目標

- (1) 世界と日本の動きに対する関心を高め、国民の生活がどのように向上していったのか意欲的に追究しようとする。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 日本の経済成長や石油危機について、国際社会や国民生活との関わりから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 日本の高度経済成長や石油危機、国際社会や国民生活との関わりなどに関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりすることができる。(資料活用の技能)
- (4) 世界と日本の動きについてとらえ、我が国の経済や科学技術が急速に発達して国民の生活が向上したことを理解し、その知識を身に付けることができる。(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領における社会科歴史的分野2内容(6)現代の日本と世界イ「高度経済成長、国際社会とのかかわり、冷戦の終結などを通して、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。」を受けて設定したものである。この単元は、高度経済成長や国際社会とのかかわり、冷戦の終結などと現在の自分たちの生活との深いつながりや、現代の日本と世界の動きに関心をもたせ、国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助などに着目させて「国際社会において我が国の役割が大きくなってきたこと」を理解させ、公民的分野の学習に向けた課題意識をもたせることができる単元である。

(2) 生徒観

実態調査(3年\*組 男子\*人 女子\*人 計\*人 \*年\*月\*日実施)

1	高度経済成長という言葉を知っている。	はい *人	いいえ *人
2	四大公害について知っている。	はい *人	いいえ *人
3	自分の考えをクラスで発表することについて 考えることも発表することも得意 *人	考えることは得意だが発表は苦手 *人	
	考えることは苦手だが発表することは得意 *人	考えることも発表も苦手 *人	

実態調査では、高度経済成長について理解している生徒は\*\*であった。また、公害についても小学校で既習しているものの、\*\*の生徒は忘れていた。県学力診断のためのテストにおいては、本学年は、県正答率(62.6%)を約\*\*ポイント上回っている。本学級の生徒は指示された課題に意欲的に取り組む姿が見られるが、自分の考えを述べる場面になると消極的になってしまう傾向がある

(3) 指導観

この単元は、日本の高度経済成長が石油危機により終焉するまでの過程について、日本の国際社会との関わりの中で、日本の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上したことを理解することがねらいである。敗戦後の日本が経済において世界第二位までどのように登り詰めたのか、当時の日本の様子の映像や画像を用いて生徒の視覚に訴え、関心を高めたい。そしてグループ構成や発問の仕方を工夫するとともに、発表の仕方をマニュアル化することで、習得した知識を用いて自分の考えを述べるのが苦手な生徒への支援としていきたい。

4 本校研究テーマとの関連

本校では、「主体的に学習に取り組む態度を養い、思考力・判断力・表現力を育む教育の推進～各教科の特性を生かした「\*\*授業スタイル」を通して～」を研究テーマとしている。社会科では、社会的な思考力・判断力・表現力を育成することを、社会的な事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力を身に付けさせることと考える、実践を行っている。具体的には、授業において、資料を正確に読み取る学習、社会的な事象の意味・意義を解釈する学習や事象間の関連を説明する学習に重点を置いている。本単元では、節目となる歴史的事象を確実に習得させ、我が国の国際社会での役割が大きくなってきたことを説明する表現活動を行う。

5 単元指導計画及び評価規準(7時間扱い)

ア 社会的な事象への関心・意欲・態度      イ 社会的な思考・判断・表現      ウ 資料活用の技能

エ 社会的な事象についての知識・理解

第1次 世界の多極化と日本..... 3時間

配時	学習内容	学習形態	評価規準	記号
1	東・西ヨーロッパで経済の統合や民主化などの動きが起こったことや、アラブ諸国の石油戦略が先進工業国に大きな影響を与えたことについて知る。	一斉	経済の統合や民主化など、東・西ヨーロッパで米ソ両大国に対抗する動きが起こったことや、中東の紛争を背景に、アラブ諸国の石油戦略が先進工業国に大きな影響を与えたことを理解し、その知識を身に付けている。	ア、エ
2	安保条約改定の内容や経過について考察し、国民の間に大規模な反対運動が起こった理由を表現する。	一斉 グループ	アメリカ軍の基地の資料から情報を読み取り、安保条約改定の内容や経過、反対運動が起こった理由について考え、説明している。	イ・ウ
3 本時	高度経済成長により、国民生活が豊かになったことや、過疎・過密化などの社会問題や深刻な公害問題が生じたことを理解し、その社会的背景や原因について考え、表現する。	一斉 グループ	高度経済成長や公害問題について理解し、それらの事象が起きた社会的背景や原因について考え、適切に説明している。	イ、エ

第2次 冷戦の終結とこれからの日本..... 4時間

6 本時の学習

(1) 目標

高度経済成長や公害問題について理解し、それらの事象が起きた社会的背景について考え、適切に説明することができる。

(2) 準備・資料

①小テスト②ディスプレイ③写真④映像⑤グラフ⑥地図⑦ワークシート⑧短冊

(3) 展開

\*\*\*は「\*\*授業スタイル」との関連

**スタイル	学習内容及び活動	支援・指導上の留意点と評価の観点	資料
I (7分)	1 前時の復習を行う。 【ストレート】	・既習事項を、小テストを行うことで振り返り、本時につなげる。 ・思い出せない生徒には、ノートを振り返り、自分で確認するよう助言をする。	①
	2 戦後と高度経済成長時の写真・映像を視聴し、思ったことや感じたことを発表する。	・二つの写真が同じ日本であること、わずか十数年の間のできごとであることを説明する。 ・東京オリンピックを話題にし、50年前の日本に関心をもたせる。	② ③ ④
II (28分)	3 学習課題を知る。 高度経済成長の光とかげについて説明しよう。	・本時の課題を確認し、流れを説明する。	
	4 高度経済成長について知り、感想を述べる。 ・所得倍増計画 ・国民総生産世界第二位 ・三種の神器	・第一次産業から第二次産業に移行したことを伝える。 ・GNPについての説明をする。 ・GNPの推移のグラフを提示し、何年でどのくらい増加したのかを読み取らせる。 ・三種の神器は当時の夢の家電だったことを伝えるとともに、戦後の焼け野原からの復興の早さについて考えさせる。 ・感想には間違いがないことを確認し、生徒が自分の意見に自信をもてるようにする。 ・現在にも続いている社会問題がこの頃から始まったことを説明する。	⑦ ⑤ ③
III (15分)	5 社会問題について知る。 ○過密化・過疎化 ○住宅不足・ごみ問題		
	6 四大公害について知り、なぜ起きたのかを考え、発表する。 【トライアングル】 ○水俣病 ○四日市ぜんそく ○イタイイタイ病 ○新潟水俣病 〈予想される反応〉 ・環境のことを考えていないから。 ・排気ガスや汚水をきれいにする技術(考え)がないから。 ・お金の豊かさだけを求めたから。	・地図を見せ、四大公害の場所を確認する。 ・映像や画像を見せることで、その被害の大きさや悲惨さを伝える。 ・活発に意見が出るよう、小グループで話し合い、考えをワークシートにまとめさせる。 ***	⑥ ③ ⑦
III (15分)	7 石油危機、経済摩擦について知る。 【ストレート】 鉄鋼・造船・石油化学 自動車・精密機械・コンピュータ	・それぞれ出た意見を称賛し、補足する。 ・これを教訓として、現在の社会では環境に対する意識が異なることを伝える。 ・環境庁や公害対策基本法ができたことを確認させる。 ・考えが出ない生徒には、再度、所得倍増計画を説明し、企業や政府が利益追求を優先したことを確認させ、理解させる。 ・オイルショック時の写真・映像を見せる。 ・日本は資源に乏しいことを確認させる。 ・石油危機により、高度経済成長が終わったことを伝える。	⑧ ③ ④
	8 本時のまとめをする。 ○高度経済成長、公害問題について自分の言葉で説明する。 ・高度経済成長・社会問題・公害・石油危機の言葉を用いて、150字以内でまとめる。 ○個人でまとめ、発表する。	・まとめられない生徒には、ワークシートでキーワードを振り返らせる。 *** ・プラス面とマイナス面の両面からとらえるよう助言することで、説明をしやすくさせる。 評 高度経済成長や公害問題について理解し、それらの事象が起きた社会的背景や原因についてまとめることができたか。(思考・判断・表現 発表、ワークシート)	⑦
	9 次時の学習課題の確認をする。 冷戦の終結 ～日本が果たすべき国際的役割～	・次時の学習課題を明確にし、次時への意欲をもたせる。	